

令和7年1月6日 三橋和史香芝市長 仕事始め式における職員訓示

明けましておめでとうございます。年頭に当たり、職員の皆さんが健やかに新年を迎えられ、こうして元気な姿を見せていただき、嬉しく思います。

中村議長と筒井副議長におかれましてもこの仕事始め式に御臨席を賜り、御礼申し上げます。

さて、本年、令和7年1月1日付けで機構改革を行いました。この機構改革は、先の市長選挙に際して私が公約として掲げた「『子ども真ん中社会』の徹底推進」、「お年寄りの安全安心な生活の保障」、「地元産業を大切にした地域の活性化」、「鉄道・道路の利便性の向上」及び「あらゆる分野におけるきめ細かな行政の実現」の5つの政策を推進するためのものであり、主に、法制執務、危機管理、子育て支援及び街づくりに係る組織体制を再編することにより、法制機能の強化とより効率的な行政執行の両立を図るためのものです。そして、これに併せて、新たな体制の下で力強く市政を推進するため、適材適所を旨として人事異動を発令しました。引き続き、全ての職員の皆さんが5つの政策を意識し、自己研鑽を怠ることなく職務に精励されることを望みます。

昨年、令和6年6月3日に私が香芝市長として就任して以降、公務員特有の事勿主義と揶揄されるような保身的で進歩のない姿勢を厭うように、また、改善や発展の余地があるにもかかわらず、それに向けて取り組むことなく現状を放置することは衰退と同義であることを意識するように求め続けてきました。私の就任以前の職場風土との変化に上手く順応できなかった方もいるかもしれませんが、

社会全体の奉仕者として公務に従事している以上は市民らのために成果を挙げるべきことは当然のことです。

迎えた新年、令和7年は、巳年です。巳は脱皮する生き物であることから、巳年は古い慣習から脱却し新しい段階に進んで変革する年であるといわれることがあります。貴職ら自身はもちろんのこと、管下の職員において、未だ、市民らのために必要な事柄に対し、縷々の理屈を並べ立てて取り組もうとしない傾向があるとすれば、年明けを機に心機一転、直ちに考え方を改めていただき、先に示した5つの政策の推進は、公務の正当性を根拠付ける市民らの声を代弁したものであり、社会から本市に向けられた要請であるということ今一度認識し、職員として、市民らの期待に応えるためにいかなる方策を講ずるべきであるのかをよく考え、なすべきことを実行し、香芝市の発展に向けて果敢に挑戦していく姿勢を持つことを期待しています。

私の任期は4年間であり、今任期は既に8分の1以上の期間が経過しました。当初に掲げた目標のうち8分の1以上の成果が挙げられていなければなりません。そういった意識を持ってこれまでの間の職務を顧みて、不十分な点があるとするれば、貴職らにおいても、職務に当たっては明確な目標を立て、率先して市民らに貢献する具体的な成果を挙げることにこだわり、1日1日を惜しみ、寸暇を惜しんで市政の前進に向けて励んでいただくようお願いいたします。

併せて、自らの職務がいずれの法令例規に根拠を有しているのかを常に意識し、上席者への報告、相談及び連絡並びに部下への助言及び指示等に際しては、正確な法令用語や行政用語を使用し、庁内

において正確かつ効率的な意思疎通が図られるように努めてください。

議会に対する対応については、それが議事機関として市政上の重要な意思決定を担うものであることを踏まえ、議案提出の際の説明、議員からの質問や質疑に対する答弁に当たることにより、職員が市政上の重要な事項の審議の一翼を担うことを深く認識し、理事者としての十分な知識の習得及び技能の向上にも努めるようお願いいたします。

これらのほか、私の初登庁に際しての職員訓示の内容も今一度確認の上、職務を遂行していただくようお願いいたします。

公約の内容に沿い、「父になるなら香芝市」、「母になるなら香芝市」と、子育て世代を中心に選ばれる街として発展させ、若者世代と高齢者世代、あらゆる世代が相互に支え合っていく活気の溢れる街にしていくことを目指し、職員が一丸となって、市民らとともに、香芝市の明るい未来を描いていただくことを期待しています。

以上、仕事始めに際しての職員訓示といたします。

令和7年1月6日

香芝市長 三 橋 和 史